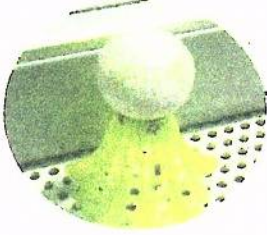


羽根つきボールとクラブ1本

公園で楽しめてお手軽

ターゲット・バードゴルフで使用するボール



傘を逆さに開いた形状のホールに向けてショットする女性プレーヤー。八王子市の戸吹スポーツ公園で



ターゲット・バードゴルフ 高齢者らの人気の的

主な道具は羽根つきボールとクラブ一本。近所の公園で楽しめる手軽さも魅力の首都圏発祥のスポーツ「ターゲット・バードゴルフ」が高齢者を中心に人気を集めている。中でも都内は競技人口約二千人と全国の都道府県で最多。その魅力を探ろうと大会会場を訪ねてみた。

(鈴木暹理)

五月十五日、八王子市の戸吹スポーツ公園で開催された「都公認指導者大会」。男性百二十二人、女性四十五人の計百六十七人が参加する大会だった。平均年齢七十四歳、最高齢は九十三歳の男性だった。

参加者の一人、八王子市の五十嵐美佐子さん(モコ)は六十歳から続けるベテラン。「外で体を動かすのは気持ちいいし、男性プレーヤーがすごく紳士的で楽しい」と夢中だ。

一九六九年、埼玉県川口市のゴルフ愛好家が考案したという。金属製クラブ一本とバドミントンのような

都内の競技人口2000人 八王子で白熱の大会

羽根がついたプラスチック製のゴルフボールを使い、傘を逆さまに開いた形の「ホール」に入れるまでの打数で競う。18ホール、パー72のルールもゴルフと同じで一試合二時間ほど。男性でも飛距離は二十五メートルほど。サッカーコート半分ほどの場所があれば競技可能だ。

ショットの技術だけでなく、状況分析や相手との駆け引きなど奥の深さもゴルフ並み。

参加男性の一人は「風が右から吹いているからOBに気を付けよう」などと戦術を口に、クラブを振っていた。

都ターゲット・バードゴルフ協会の伊藤英彦理事長は「体力的な問題で本格的なゴルフをやめた人も、ゴルフ未経験者も参加してほしい。頭を使うので認知症予防にも役立ちます」とアピールする。

課題は、公園や校庭など会場の確保という。クラブが当たる危険性を懸念し、公共の会場を借りられないケースがある。伊藤理事長は「安全対策は万全なので競技の魅力とともに理解を広めていきたい」と話していた。